

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに第123期第1四半期（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）の営業概況をご報告申し上げます。

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、中国及び新興国においては景気減速傾向が続いたものの、米国では景気が底堅く推移し、欧州も緩やかな回復を続け、全体としては緩やかな回復となりました。わが国経済は、雇用情勢の改善等により緩やかな回復基調で推移したものの、個人消費の伸び悩みや輸出に弱い動きが見られる等、足踏み状態が続きました。

このような状況下、当社グループは、持続的成長と働きがいのある会社を目指した中期経営計画「Growth & Change 2018」をスタートしました。その一環として、欧州を中心として7カ国に生産拠点を持つスチールホイールメーカーであるMW ITALIA S.R.L.との戦略的提携を強化し、グローバルでの事業展開を加速しました。また、需要に応じた生産体制の構築や生産性の向上、省エネ等のコスト改善に引き続き取り組んでまいりました。

今後のわが国経済は、雇用・所得環境の改善や政府の経済対策等により、緩やかに回復していくと期待されるものの、中国や新興国経済の景気減速、英国のEU離脱問題に伴う欧州経済の先行き不透明感の高まり等の不安材料があり、当社グループを取り巻く事業環境は予断を許さない状況が継続するものと思われます。

このような経営環境下、当社グループは、本年度より3年間を実行期間とする中期経営計画「Growth & Change 2018」において、成長ドライバーと位置付ける自動車・産業機械部品事業のグローバル展開の加速化、鉄鋼事業の独自技術を生かした製品群の拡充、クローラーロボットや合成マイカの新事業への挑戦等の諸施策を着実に推進し、事業の持続的な成長を目指します。加えて、将来を担う人材が最大限に能力を発揮できる働きがいのある会社への変革を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年8月



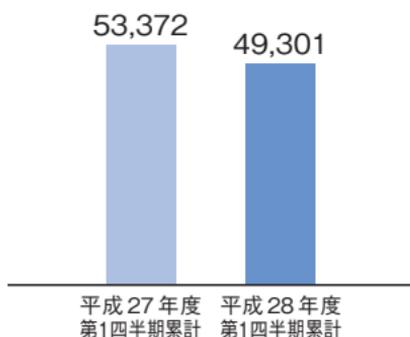
代表取締役社長

藤井康雄

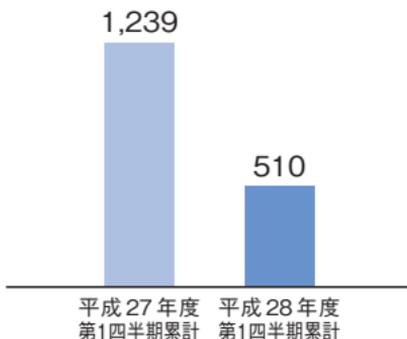
連結業績の推移

(単位：百万円)

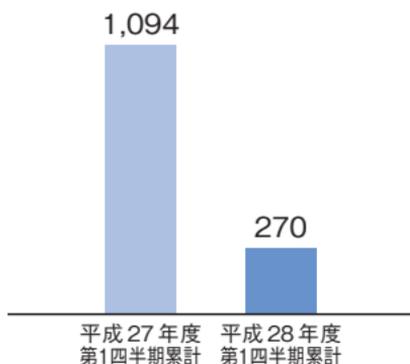
売上高



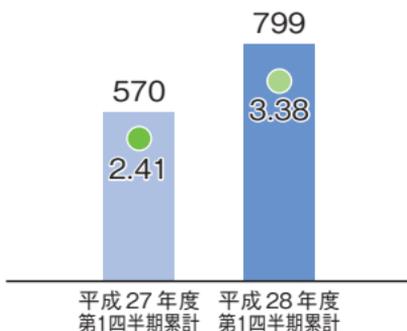
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益 (■) 1株当たり四半期純利益 (●) (円)



四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

| 科目 | 平成27年度末 | 平成28年度 第1四半期末 | 科目 | 平成27年度末 | 平成28年度 第1四半期末 |
|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
| 流動資産 | 97,186 | 95,646 | 流動負債 | 66,632 | 68,419 |
| 固定資産 | 134,397 | 130,987 | 固定負債 | 64,977 | 61,849 |
| 有形固定資産 | 102,924 | 101,500 | 負債合計 | 131,609 | 130,268 |
| 無形固定資産 | 1,372 | 1,318 | 純資産の部 | | |
| 投資その他の資産 | 30,101 | 28,167 | 株主資本 | 93,028 | 92,680 |
| 資産合計 | 231,583 | 226,634 | その他の包括利益累計額 | 5,865 | 2,607 |
| | | | 非支配株主持分 | 1,080 | 1,077 |
| | | | 純資産合計 | 99,973 | 96,365 |
| | | | 負債純資産合計 | 231,583 | 226,634 |

セグメント別の営業概況

鉄鋼事業

売上高 16,021百万円  営業利益 584百万円 

電炉業界は、建設向け及び製造業向け鋼材需要が低調に推移したため、粗鋼生産は前年同期を下回りました。また、主原料である鉄スクラップ価格が上昇に転じる等、厳しい環境が続きました。

このような状況下、当社グループは、異形鋼の需要開拓や輸出の拡大等に取り組み、販売数量の確保に努めました。しかしながら、販売価格が下落し、鉄スクラップとの値差は縮小いたしました。

自動車・産業機械部品事業

売上高 29,901百万円  営業利益 603百万円 

自動車業界は、軽自動車の販売低迷の長期化に加えて、トラックの輸出減少等により、国内生産台数は前年同期を下回りました。一方、米国では自動車需要は好調に推移いたしました。また、建設機械業界は、中国や東南アジア市場が低調に推移するとともに、鉱山機械需要も引き続き低迷しました。

このような状況下、当社グループは、建設機械用足回り部品及び国内におけるホイールの販売数量は減少いたしました。中国の生産拠点の集約による効果が発現等いたしました。

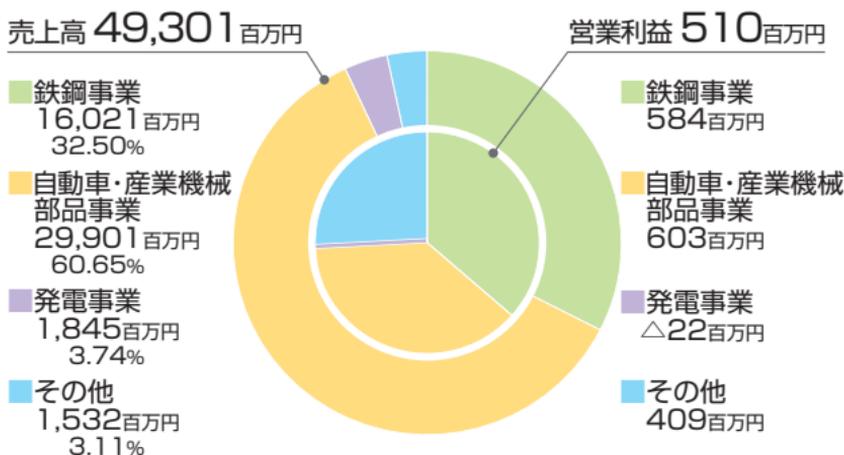
発電事業

売上高 1,845百万円  営業損失 22百万円 

事業計画に沿って石炭火力発電による安定した電力供給を続けてまいりましたが、原油及びLNG価格の急落に伴う電力販売価格の大幅な下落や石炭価格の下落が小幅にとどまったことに加えて、発電所の定期修理の影響を受けました。

その他

売上高 1,532百万円  営業利益 409百万円 



※セグメント別の営業利益は、調整額調整前の数値で表示しております。

連結業績の予想

| | 平成27年度 実績 | 平成28年度 第2四半期 累計 予想 | 平成28年度 通期 予想 |
|-------------------------|--------------|-----------------------------|--------------------|
| 売上高 | 215,872百万円 | 102,000百万円 | 215,000百万円 |
| 営業利益 | 10,000百万円 | 1,300百万円 | 7,500百万円 |
| 経常利益 | 8,806百万円 | 900百万円 | 6,700百万円 |
| 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1,700百万円 | 500百万円 | 4,500百万円 |
| 1株当たり 当期純利益 | 7.18円 | 2.11円 | 190.02円 |

※平成28年度通期予想における1株当たり当期純利益は、期首に株式併合が行われたと仮定し、算定しています。

配当の状況

| | 平成27年度 実績 | 平成28年度 予想 |
|--------|--------------|--------------|
| 第2四半期末 | 1.00円 | 1.00円 |
| 期末 | 5.00円 | 50.00円 |
| 合計 | 6.00円 | - |

※平成28年度予想における1株当たり期末配当金は、株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は、基準となる1株が異なるため「-」としています。

株式併合を考慮しない場合の平成28年度予想の期末配当金は5円となり、1株当たり年間配当金は6円となります。

単元株式数の変更及び株式の併合について

当社は、平成28年10月1日をもって、単元株式数を1,000株から100株に変更し、当社株式について10株を1株に併合いたします。

株主様におかれましては、特段のお手続きの必要はございません。

なお、株式併合の結果1株に満たない端数が生じた株主様には、これを一括処分し、その処分代金を端数の割合に応じて平成28年12月初旬にお支払いする予定です。



敷地面積 25千㎡（松本工場）、3千㎡（甘楽工場）

従業員数 227人（2016年3月末現在）

生産品目 工業用ファスナー等

トピーファスナー工業は、工業用ファスナー（工業製品のパーツの締め付けや、繋ぎ留めをする部品）の設計・開発・製造を事業としています。プレス・フォーミング・熱処理・二次加工の一連の製造工程を有し、自動車・精密機器・産業機器などの幅広い分野に製品を供給しています。



また、高精度な金属加工方法を用いて、三次元的に複雑な形状を作ることができる金属射出成形品の製造も手掛けています。今後は、近年増加している自動車の低燃費化に対応するため、多段式トランスミッション部品等の高機能部品の販売拡大を進めるとともに、自動運転機能や電動化にも対応すべく取り組んでまいります。

また、海外ではアメリカ・タイ・ベトナムに続き、メキシコにおいて新会社を設立し、北米・中南米市場をターゲットとして、2017年1月より新工場が稼働を開始する予定です。グローバル生産能力の増強を図ることで、拡大する需要を確実に捕捉してまいります。